

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

記述, 論述, 描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は昨年度と変わらず, 問題ページ数はやや増加したが, 小問数はやや減少し, 論述量はほとんど変わらなかったため, 全体の分量は昨年度と大きく変わらなかった。また, 全体的な難易度は, 与えられた条件だけからでは発想しにくい考察問題が多かったため, 昨年度よりやや難化した。

出題の特徴や昨年との変更点

知識問題, 考察問題ともに難度の高い問題が出題される。

試験時間に対する問題量が非常に多い。

昨年は出題されなかった描図形式の設問が2問出題された。

その他トピックス

大問3問のうち2問が「生命現象と物質」の単元からの出題だった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述 描図	タンパク質 酵素	生物	問4 二量体を形成するときには2つの単量体が活性部位を向かい合わせにして結合するので, 活性部位の近くにおけるアミノ酸置換を持つ単量体 X ^B はこの結合に影響を及ぼすと考えられる。	標準
II	記述 論述	細胞 タンパク質	生物	問5 実験1の文中にある「その後, 核内のDNAは複製され, 分裂期の状態が創りだされる」という記載から目的を考察する。 問6 実際には, モータータンパク質であるダイニンが膜成分を核に向かって輸送する量が, 核の大きさの増大を制御していると考えられている。	やや難
III	記述 論述 描図	生態 進化	生物	問3 イカの体は照射光の一部を透過するので, 透過しなかった分の光を発光することで, 照射光に紛れてシルエットを隠すことができると考えられる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 教科書レベルの基本的な知識を, 正確に論述できるようにしておく。
- 実験考察問題の出題頻度が高いので, 実験結果などを要点をまとめて論述する練習を重ねておく。
- 試験時間に対する問題量が多いので, 問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げておく。